



第4回 香椎宮雅楽保存会演奏会

その昔、香椎宮御祭神の神功皇后は、仲哀天皇の崩御後、住吉大神の御神託を受け、御子応神天皇をご懐妊の御身ながら三韓に渡り、様々な文化を持ち帰り日本文化発展の礎を築きました。この大陸文化の中の一つに舞楽があり、香椎宮の縁起によりますと、祭典毎に香椎廟楽所がその舞楽を盛大に奏して参りました。昭和46年には、香椎宮雅楽保存会と名称を改め香椎宮の祭典はもとより、しょうぶ祭り・観月会・各方面での演奏など、幅広く雅楽普及に努めております。

近年はコロナ禍で演奏会も3度中止になり、練習もほとんど出来ない状況でしたが、東区企画振興課より、東区芸術祭のオープニングイベントとして「第4回 香椎宮雅楽保存会演奏会」の出演依頼を受けることになりました。そこで、平成27年より福岡県神社庁雅楽部会主催の講習会でご指導いただいております、元宮内庁楽部首席楽長豊英秋先生と大窪永夫先生のお二方に客演をお願いしましたところ快くお引き受け頂きましたので会員一同一層練習に励んでいます。

当日は新型コロナウイルスの感染拡大防止に努め演奏会を進めて参りたいと存じます。また客演の先生お二方には、福岡県にちなんで、御神楽「朝倉音取・朝倉」を奏していただきます。大変貴重な演奏をお楽しみください。

『客演』紹介

ふんの ひで あき
豊 英秋 先生



昭和19年生まれ。
東京都出身。
笙(しょう)奏者。
家は平安時代からつづく
楽家。元宮内庁式部職楽部
首席楽長。雅楽演奏団体
「十二音会」の代表。平成
21年、長年にわたる雅
楽演奏家としての業績で
芸術院賞を受賞。

おお くぼ なが お
大窪 永夫 先生



昭和24年生まれ。
東京都出身。
篳篥(ひちりき)奏者。
元宮内庁式部職楽部首
席楽長。今年3月、雅楽
の伝承と発展、普及、指
導の功績から恩賜賞、芸
術院賞を受賞。

『演目』紹介

管 絃

平調音取 (ひょうじょうのねとり)

朗詠嘉辰 (ろうえいかしん)

※朗詠は、漢詩を管楽器の伴奏で歌う歌物です。

嘉辰 今月 歎無極 (カシンレイゲツタカムキョク) このめでたいときに当たりて、喜び極まりなく
万歳千秋楽未央 (バンゼイセンシュウラクビヨウ) 万歳千秋と祝いつつ、その楽しみは尽きるこ
とがない。

鶏徳 (けいとく)

※香椎宮の末社、鶏石神社にちなんで選曲しました。慶徳 (けいとく) とも言います。

越殿楽残楽三返 (えてんらくのこりがくさんべん)

※皆様ご存じの越殿楽を残楽の方法で三回繰り返します。残楽三返という演奏法は、管絃の演奏を
楽しむために生み出された特殊な演奏法で、平安時代に宮中の御遊 (ぎょゆう) で行われていま
した。特に箏の演奏技巧を披露し賞するためであり、筆筆はあくまでも箏の演奏を助けるための
ものであると、江戸時代に書かれた『楽家録』に記されています。今日は筆筆を大窪先生、箏を
豊先生に奏して頂きます。

客 演

朝倉音取・朝倉 (あさくらのねとり・あさくら)

※御神楽の神送りの中で奏される「朝倉音取」「朝倉」。音取は大窪先生に筆筆を演奏いただき、朝
倉は大窪先生の和箏 (わごん)、笏拍子と歌を豊先生に奏楽いただきます。

舞 楽

陵王 (りょうおう)

※林邑 (現ベトナム辺り) の僧である仏哲が日本にもたらしたものとされており。北斉の蘭
陵武王・高長恭の逸話にちなんだ曲目で、眉目秀麗な名将であった蘭陵王が優しげな美貌を
儚い仮面に隠して戦に挑み見事大勝したため、兵たちが喜んでその雄姿を歌に歌ったのが曲の由来
とされています。

納曽利 (なそり)

※別名を「双龍舞」とも言います。二匹の龍が戯れる様子を表現した舞とされており。舞ば
かりでなく筆筆と高麗笛の織り成す音色も二匹の龍を音で表現しております。

令和4年 **10月2日(日)**
14時開演 (13時30分開場)
会 場 **なみきスクエア**
入場券 **500円 (全席自由)**
当日券 **700円**

※ご入場の際は、入場券が必要となります(入場券は、8月7日(日)
午前10時より香椎宮社務所にて販売致します)

「なみきスクエア」へのアクセス
〒813-0044
福岡市東区千早4丁目21番45号(千早駅西側)

【電車でのアクセス】

J R 鹿児島本線「千早駅」下車 徒歩約1分
西鉄貝塚線「千早駅」下車 徒歩約1分

【バスでのアクセス】

西鉄バス「千早駅」バス停 下車 徒歩約1分
(系統番号 1,2,3,4)

【車でのアクセス】

福岡都市高速「香椎浜」より車で約5分



お問い合わせ

福岡市東区香椎4丁目16番1号 香椎宮内

電話 092-681-1001 (楠本)